

6 MW500gをセットアップする

本装置をプロキシサーバとして起動させるために最小限必要となる環境を構築します。WindowsクライアントPC(WindowsXP 以降が動作する環境)を用意してください。詳しくは、ユーザズガイド(ソフトウェア編)の3章「初期インストール」を参照してください。

① クライアントPCと本装置を準備する

本装置が提供するWebインタフェースによる初期導入設定を行うため、本装置と同じネットワークのIPアドレス(例えば、192.168.250.1/255.255.255.0)を設定したWindowsクライアントPC(以下、クライアントPCと記述します)を用意してください。

メモ：本装置の初期状態のネットワーク設定は以下のとおりです

LANポート番号 : eth0
IPアドレス : 192.168.250.250
ネットワークマスク : 255.255.255.0
ホスト名 : intersec.domain.local

- ・ハブ環境を介して接続する
ハブに本装置とクライアントPCをそれぞれストレートケーブルで接続します。
注意：本装置とクライアントPC以外の機器は接続しないでください。
- ・本装置に直結する
本装置とクライアントPCをクロスケーブルで接続します。

② クライアントPCと本装置を起動する

本装置とクライアントPCをLAN ケーブルで接続した後、電源を入れてください。本装置の起動後、背面の「LINK」ランプが点灯しているか確認してください。起動後、クライアントPCのコマンドプロンプトからping コマンドなどを使用して通信状態を確認してください。
[実行例]
C:> ping 192.168.250.250(■)
(■)斜体部分は、本装置のIPアドレスです。

本装置と通信できない場合は、クライアントPCのネットワーク設定やLANケーブルの接続などを確認してください。

③ 本装置の初期導入設定ManagementConsoleに接続する

クライアントPCのInternet Explorerから以下のURL を指定して、本装置のManagementConsoleに接続してください。

http://192.168.250.250:50453/

正常に接続されると「Management Console」のログイン画面が表示されます。



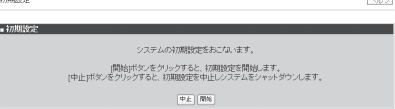
ユーザ名、パスワード入力画面が表示されます。”ユーザ名(U)”、“パスワード(P)”に以下を入力して、[OK]をクリックしてください。

ユーザ名(U) : root
パスワード(P) : システム管理者パスワード(*)

システム管理者のパスワードは、『管理者用パスワード』に記載されている「出荷時の管理者用パスワード」を入力してください。

④ 初期導入設定を実行する

1 初期導入を開始する
ログインが成功すると以下の画面が表示されます。[開始]を押下し、初期導入を実施します。作業を中断したい場合は、[中止]を押下してください。



2 システム管理者を設定する

ここでは、システム管理者に関する設定を行います。システム管理者のアカウントは“admin”（固定）です。システム管理者用のパスワードを「パスワード」/「パスワード再入力」に入力して「次へ」をクリックしてください。システム管理者名のパスワードの指定は必須です。

メモ：システム管理者のアカウントは、セットアップ完了後システム管理者ManagementConsole画面で変更できます。

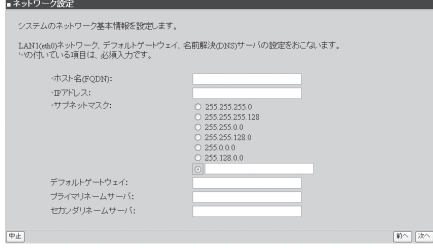


3 ネットワーク情報を設定する

お客様の運用ネットワークに合わせたネットワーク情報の設定を行います。
「ホスト名(FQDN)」、「IPアドレス」、「サブネットワーク」、「デフォルトゲートウェイ」、「プライマリネームサーバ」、「セカンダリネームサーバ」に設定内容を入力し、「次へ(N)」をクリックしてください。

項目名	設定内容
* ホスト名	本装置のFQDNを設定します
* IPアドレス	本装置のIPアドレスを設定します
* サブネットワークマスク	ネットワークマスクを設定します
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイを設定します
プライマリネームサーバ	プライマリネームサーバを設定します
セカンダリネームサーバ	セカンダリネームサーバを設定します

※項目名の先頭に「*」があるものは必須入力です

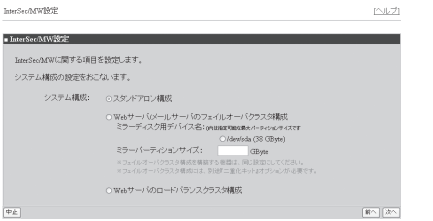


4 InterSec/MWのシステム構成を設定する

本装置のシステム構成に関する設定を行います。InterSec/MWは、以下の構成を選択できます。

- ・スタンドアロン構成
- ・Webサーバ/メールサーバのフェイルオーバークラスタ構成
- ・Webサーバのロードバランスクラスタ構成

「Webサーバ/メールサーバのフェイルオーバークラスタ構成」を選択した場合は、「ミラーディスク用デバイス名」を指定し「ミラーサイズ」をGB単位で入力します。設定を終了後、「次へ」をクリックしてください。



メモ：各システム構成の詳細な説明は以下のとおりです。

- ・スタンドアロン構成
本装置台で運用します。LANインタフェースの冗長化ができます。

- ・Webサーバ/メールサーバのフェイルオーバークラスタ構成
2台のInterSec/MWでの冗長化システムによる運用を行います。この構成を選択した場合は、「ミラーディスク用デバイス名」と「ミラーサイズ」(ミラー対象のパーティションサイズ)の指定が必要です。

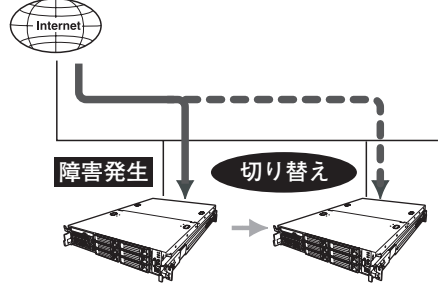
「ミラーディスク用デバイス名」

2台のマシンそれぞれに対しミラーディスク用に同じサイズのバック/論理ドライブを別途作成しておく必要があります。作成したデバイス名(/deb/sdaもしくは/deb/sdb)が表示されますので指定するパーティションを選択します。

「ミラーサイズ」

最大で指定できるサイズを表示されます。必要な「ミラーディスク用デバイス」のサイズをGB単位で指定します。

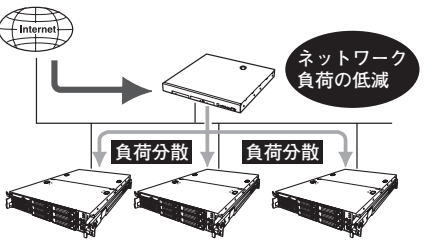
フェイルオーバークラスタ構成



・Webサーバのロードバランスクラスタ構成

2台以上のInterSec/MWでのWebサーバロードバランスを構築します。この構成は、Webサーバのみ利用することができます。

ロードバランスクラスタ構成



注意：フェイルオーバークラスタ構成、ロードバランスクラスタ構成を構築する場合は、初期導入完了後システム管理者ManagementConsole画面からの設定が必要です。『ユーザズガイド』の3章を参照してください。

また、フェイルオーバークラスタ構成を構築する場合は、別売りの「Express5800/MW300g-MW500g- 二重化構成構築キット」が必要です。

5 初期導入設定内容を確認する

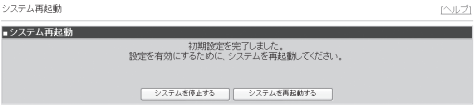
前項までの初期導入内容を表示します。設定内容に間違いがないか確認してください。表示した設定内容でよければ「次へ」をクリックしてください。設定内容を変更する場合は「前へ」をクリックしてください。



6 システムを再起動する

初期導入設定が完了すると、システムの再起動画面を表示します。

続けてシステムの運用設定を行う場合は[システムを再起動する]をクリックしてください。
システムを停止する場合は[システムを停止する]をクリックしてください。



7 システムにログインして、各種設定を実行する

初期セットアップ完了後は必ずManagement Consoleに接続してシステムの初期化完了を確認してください。完了後、本装置の詳細な設定や管理は、管理コンソール「ManagementConsole」画面で行います。

① 管理クライアントのWebブラウザから以下のURLに接続する

クライアントPC上でWebブラウザ(Webブラウザは、Microsoft Internet Explorer 6.0 SP2以上)を起動します。Webブラウザの設定では、プロキシを経由しないで接続してください。

https://本装置に割り当てたFQDN: 50453/

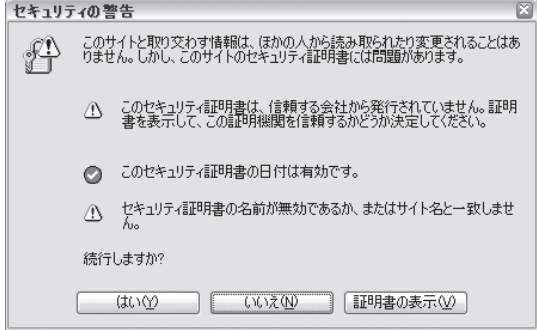
または

https://本装置に割り当てたIPアドレス: 50453/

注意：URLに本装置のFQDNを指定する場合は、管理クライアントで名前解決ができることが必要です。

② 管理コンソールにログインする

前述のURLにアクセスすると「セキュリティの警告」画面が表示されますが、問題はありまませんので、続行してください。

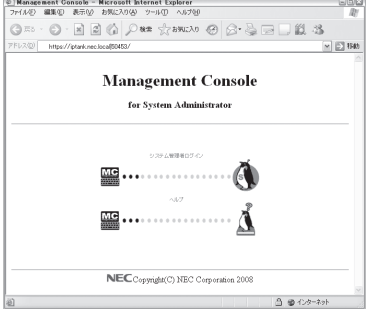


InternetExplorer6の場合



InternetExplorer7の場合

管理コンソールのログイン画面が表示されます。“システム管理者ログイン”をクリックしてください。



ユーザ名、パスワード入力画面が表示されます。”ユーザ名(U)”、“パスワード(P)”に以下を入力して、[OK]をクリックしてください。

ユーザ名(U) : admint

パスワード(P) : システム管理者パスワード(*)

(*)6[4]-2で設定したパスワードです。

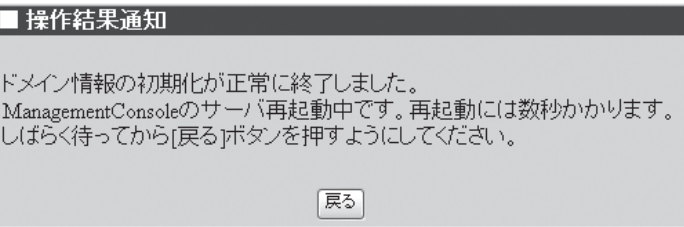


We bブラウザに表示された画面から各種システムの設定ができます。詳しくは、ユーザズガイド(ソフトウェア編)の4章を参照してください。

③ 管理コンソールへの初めてのログイン

「ManagementConsole」に初めてログインした場合、以下の「操作結果通知」画面が表示されます。本画面が表示されて本装置の全ての初期導入が完了したことになります。画面のメッセージ従い、[戻る]をクリックしてください。

管理者用のトップページが表示されます。



8 ESMPRO/ServerAgentの設定をする

本体の状態を監視するソフトウェアESMPRO/ServerAgent」がインストール済みです。ファンやマザーボード、ハードディスクドライブ、本体の温度などを監視するこのソフトウェアの設定(しきい値やイベント通知先)を行います。

詳しくは、バックアップDVDに格納されている「ESMPRO/ServerAgent ユーザズガイド」を参照してください。

<バックアップDVD>:/nec/doc/500/esmpro.sa/esmsa_users.pdf

接続に使用するクライアントマシンによっては、罫線が文字化けすることがありますが、それぞれの機能は問題なく動作します。

9 管理コンピュータのセットアップをする

本体をネットワーク上から管理、保守するソフトウェアを管理コンピュータにインストールします。ソフトウェアは、本体に添付の「EXPRESS BUILDER DVD」に含まれています。管理コンピュータのDVDドライブに「EXPRESS BUILDER DVD」をセットすると表示される「オートランで起動するメニュー」からそれぞれインストールすることができます。詳しくはユーザズガイド(ハードウェア編)の3章を参照してください。

重要 バックアップDVDをPC等に挿入したまま、再起動するとインストール処理が実行されます。利用後は必ず取り出してください。

以上で完了です。